

# 信用と信頼を 大切に 咲ききるバラづくり

市街地から西にわずかに離れた、広大な農地に数棟のハウス群があります。そのハウス群の中でバラ園を営む、大山バラ園を訪問しました。

大山さんのバラは、東京の高級ホテルでも使われており、ある有名芸能人は、「大山さんのバラが欲しい」という指名注文で結婚式場を彩ったといいます。

国内の品評会では、数多くの入賞を果たし、その高い品質には定評があります。

バラづくりを手がける大山邦夫さん・みき子さんご夫妻にお話をうかがいました。



五感を使ってバラを楽しむ。是非皆さんにお勧めしたいです。

## バラ一筋に夫婦で研究

**邦夫さん** うちも普通に米や畑をつくり、カーネーションやユリ、トルコギキョウなどの花物もやっていますが、限界を感じていました。その頃、バラを栽培している人たちがいることを知り、自分もやってみようと思えました。今までの農業と決別して、バラ一筋でやってみようかと決めたのが18年前です。

県内の切りバラ生産者仲間と共同出荷団体をつくった頃は、酒田や寒河江などに9人の仲間がいましたが、今は寒河江の人とふたりでやっています。

**みき子さん** バラづくりを始めた頃は、バラのバ字も知らなかったもので、ふたりで猛勉強しました。どこの農家もそう簡単には教えてくれません。でも、少しずつ仲良くなつて飲み会などに行くと、ひよいと話が聞けるんです。だから、誘われるたびにふたりで一緒に行つては勉強しました。

それを支えてくれたのが、おばあちゃんです。「行くな」とは一度も言われなかったし、いくら夜遅くなつても何も言いませんでした。おかげで、ふたりで行つてたつぷり勉強できたのです。

## 工場のようなバラ園ハウス

**邦夫さん** バラ園の広さは200坪あり、100坪×580坪ほどの大小6つのハウスで、山形では中堅クラスです。

**みき子さん** せっかく来てもらったのに、今の時期は咲いている花が少ないのです。5月・6月が、最も多くの品種が咲きほころぶ時期です。

**邦夫さん** 栽培は、半自動化となつており温度、水、肥料はセンサーで感知され補給されています。しかし、病気だけはどうしてもないです。農薬がだんだん効かなくなり、一番困

ているのがうどんこ病とダニで、特にうどんこ病には悩んでいます。

## 花にも品質保証

**邦夫さん** うちの団体は、国内最大の東京の花き卸会社に出荷しています。この会社といる相談して、バラに付加価値をつけようと考え、五感を使ってバラを楽しんでもらおうとして「香りのバラ」と、品質保証の証として「咲ききるバラ」という「ピー」で売り出しました。

もともとフォーマル最高級の花を作っていました。今はカジュアル（一般の方）が楽しめる花にも少しずつ手を広げています。

## 仕事の役割分担

**邦夫さん** 今は私と息子が専業で、妻には主に経理面とパートさんの管理をやらせています。また息子の嫁さんには、午前中だけパートさんと一緒に、製品づくり（切りとったバラを選花し丈をそろえ、余分な花を落として本数をまとめる）の仕事をやらせています。

**みき子さん** バラづくりは休みがない仕事です。私たちと息子が抜けると大変なので、調整が難しいです。

パートさんは平均すると4〜5人で、冬場の今は少ないけれど、5月〜6月の最盛期はすくなく多くなります。

息子たちが家業に入ってくれたので、私は少し控えたほうがいいのかと思ひ、主に夫と息子のふたりでやってみようとしています。うちは、4世代の9人家族です。家のごとは、まだまだ元気なおじいちゃん、おばあちゃんとお嫁さんにお任せしています。大家族で暮らすことのメリットは大きいと感じています。

## おふたりの息抜きは？

**みき子さん** 花は生き物、バラは朝晩二度の手入れが必要なので、一日たりとも放つておくことはできません。冬場には比較的休みは取りやすいので、夫婦ふたりでの旅行は冬場に行っていますが、家族一緒の旅行はとてもできません。ひとりでも小旅行をするのが精々です。

**邦夫さん** 私のストレス解消はカラオケです(笑)。

## 息子さんご夫妻に託すことは？

**邦夫さん** 私は、規模拡大を目指してここまでやってきました。これからは息子たちの時代で、今の状況をどう維持していくかが問題です。息子たちはもつといいと言っているようですが、もう一つくらいハウスがあつてもいいかなと思っています。



バラは手入れが大事。家族みんなが協力してバラを咲かせています。

息子さんご夫妻(左から武彦さん、優香さん)と事務室にて。

## バラを咲きらせる方法

- 1 まず、広口の花瓶を用意して、洗剤できれいに洗いバクテリアを除去してください。
- 2 買ったバラを新聞紙で包み、根元を30秒ほどお湯につけます。(湯あげといひます)
- 3 花瓶に活ける前に、水の中に葉が入らないよう葉を取り除きます。(バクテリアの発生を抑えます)
- 4 毎日水を取り替え、根元を1cm切り詰めます。
- 5 直射日光と風が当たらない場所に置き、花瓶は毎日洗って清潔に保ちます。これで花持ちがグンと良くなり、咲ききります。



バラづくりを始めた頃は、ふたりで猛勉強しました。

## 大山さんのバラは山形で買えますか？

**邦夫さん** 一番手のバラなら山形にも出荷しています。山形では高くは買ってもらえないので、どうしてもそつなつてしまいます。

山形の花屋でうちのバラが欲しい時には、東京から取り寄せてもらうことになりま

### 取材を終えて

ヒートポンプで真冬でも適温に保たれた大きなハウスの中は、開花間近のバラが整然と並んでおり、ほのかに甘い香りが漂っていました。水耕栽培なので土は見当たらず、工場のような佇まいでした。他に先駆けて新しい設備や機械を導入し、高品質のバラの開発に取り組む大山さんの挑戦はまだ続きます。

(編集協力員 後藤 桂子)